

## 第61回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成29年8月25日（金） 10：00－11：15
2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局
3. 出席者
  - (1) 委員  
葛西委員長、青木委員、遠藤委員、後藤委員、中須賀委員、山川委員、山崎委員
  - (2) 政府側  
高田宇宙開発戦略推進事務局長、佐伯審議官、佐藤参事官、高倉参事官、滝澤参事官、山口参事官、行松参事官
4. 議事次第
  - (1) 宇宙活動法に基づく技術基準等の検討状況について
  - (2) 国際有人宇宙探査に係る検討状況について
  - (3) 国立研究開発法人宇宙研究開発機構の評価及び今後の見直し内容について
  - (4) その他
5. 議事
  - (1) 宇宙活動法に基づく技術基準等の検討状況について  
宇宙活動法に基づく技術基準等の検討状況について、事務局より説明し、以下の議論があった。
    - 宇宙活動法は、国際条約の順守、それから、公共の安全の確保を前提とした上で、宇宙活動に参入するルールづくりをするものだと理解している。その結果として、民間の事業者の参入を促す目的があると考えている。また、3つの重要な点があると考えており、1点目は「JAXA衛星の打ち上げ等のJAXAの活動を阻害しないで、引き続き、円滑に運用できるようにすること」、2点目は「国際標準等、さまざまな具体的な内容を記載したガイドラインを充実させていく必要があること」、3点目は「新規事業者が新しい技術を持って参入してくる場合に、柔軟に対応していく必要があること」である。（山川委員）
    - 人工衛星の中には、地球周回の人工衛星とともに、地球外に行く、探査機も含まれると考えているが、その点に関して、今回はどの程度、技術基準の中に考慮されて

いるのか。月に探査機を送るケースや、今後民間の事業者が探査機を、地球周回以外にも送るケースが出てくることが予想されるが、それに特化した技術基準というものは、どのように考えているのか。(山崎委員)

- 今回の場合、そういった探査機も含めた規定にしている。他の天体環境汚染の防止という視点は、特に探査衛星にかかわる部分だと思っている。地球以外の天体を回る軌道に投入するケースや、当該天体に落下させる人工衛星を構成する機器については、当該天体に有害な汚染を防止する措置ということで、そういうものを確認していくという規定となっている。また、必要な内容については、ガイドライン等で解説し、そういった機能について、申請者が記載している内容を確認していく予定である。(山口参事官)
- 国際標準でカバーされているような、他の天体の汚染防止などは含みつつ、ガイドラインで記述するということがよいか。(山崎委員)
- 基本は、国際標準に則っている内容を、参照として書いていくような形式となっている。(山口参事官)
- 特に1つの目的である新規参入者をエンカレッジしていくことを、さらに強化するためには、ガイドラインが非常に大事だと思っている。新しい参入者にとっては、わかりにくいところもあるため、ガイドラインの充実と、時には勉強してもらうような会を開くことも必要であり、そのようなことも含めて、情報の周知にも努めて頂きたい。(中須賀委員)

## (2) 国際有人宇宙探査に係る検討状況について

国際有人宇宙探査に係る検討状況について、事務局より説明し、以下の議論があった。

- 国際宇宙探査は、日米協力、あるいは日米を中心とした国際協力の一貫だと考えており、それがまずスタート地点ではないかと考えている。現段階では、我が国の総合的な宇宙能力を考え、これからそれをどのように発展させていくのかということ考えた上で、どのように取り組んでいくかを検討していくべきである。具体的には、産業科学、あるいは国際競争力等の観点を総合的に考慮した上で、内容をこれから具体化していく。その中で、一番重要なのは、限られた予算の中で、成果を最大化していくことを考慮して、一番効果的な方策は何かという点である。(山川委員)

- 非常に大事なテーマのため、来年3月3日に開催される I S E F 2 に向けて、準備している。限られた予算ということがあるため、まさに成果を上げていくのには、どうしたらいいか。日本の強い分野で、先々にも引き継ぎたいところで、貢献していかないといけない。文科省、あるいは関係省庁と一緒に、先々を進めていくという経過である。(高田宇宙開発戦略推進事務局長)
  
- 宇宙探査は、工程表の中ではどういうスケジュール感か。どういう形で、最終ゴールを設定しているのか。(後藤委員)
  
- I S E F 2 については、I S E F 2 に先立って、我が国としてのポジションを固めていくということ、昨年末の段階では記載していた。I S E F 2 から先のことについては、決まっていない。現在、I S E F 2 に向けた対処方針について、できるだけ早目に、各国、関係府省で議論していくことを考えている。一方、いろんな探査衛星、科学技術、ボトムアップでやっていくものは、それぞれの衛星プロジェクトごとに、X線天文衛星の代替機とか、月面探査機などは、個別の線表が決まっている。(高田宇宙開発戦略推進事務局長)
  
- これらの議論を加速していくことが重要。中間取りまとめの中にも記載しているが、特に概要の5番目の最後の項目の中で、I S E F 2 において、発信すべき事項ということが言及されている。新たな国際協調体制づくりというところが、一言で言及されているが、非常にこちらは大きな事項だと思っている。I S S のときは、アメリカ、ロシア、ヨーロッパ、カナダ、日本の5局体制で、I S S 計画を進めてきたが、今回の I S E F 2、国際宇宙探査に関しては、今までの15カ国よりも、倍以上の国が参加して、議論をしている。その中で、議論を中心局、それから、部分的に参加する、いわゆる常任理事国、非常任理事国のような形になるのか、どういう体制をつくっていくのかというのは、非常に大切なところだと思っている。I S E F 2 では、方向性として、どういう形で打ち出していくのかということについて、深く掘り下げていく作業が必要である。(山崎委員)
  
- 限られた予算の中で、予算の中でどうやっていくかということの視点が、少し欠けているのではないかとと思っている。予算が限られているということは、選択と集中をしなければいけないわけだが、選択と集中をどうやっていくべきか、あるいは具体的にこれに選択と集中をしていきますとか、そういったことをやっていかないと、漠とした議論を幾らやっても、仕方がないと思っている。I S E F 2 で、アメリカが様々な提案をしてきたときに、日本がどこまでいくのかということの具体的

な対応ができなくなるため、それを一刻も早く、日本として始める必要がある。(中須賀委員)

- インフラをしっかりとつくっていくというところに、特に有人、無人と言わずに、輸送がどうしてもいつも必要になってくるため、日本としては、これまでの技術をベースに集中して、それを一緒にやっていくということを訴えることがいいのではないか。(中須賀委員)

(3) 国立研究開発法人宇宙研究開発機構の評価及び今後の見直し内容について

国立研究開発法人宇宙研究開発機構の評価及び今後の見直し内容について、事務局より説明し、以下の議論があった。

- 次期中期目標は7年であるため、今年後半のJAXA分科会での次期中期計画の議論が、非常に大事となる。

(4) その他

宇宙基本計画工程表(平成29年度改訂)に対するパブリックコメントの結果について、宇宙基本計画工程表改訂に向けた進め方について、準天頂衛星「みちびき3号機」の打ち上げ結果について、事務局より報告があり、以下の議論があった。

- 今後、予算の問題になったときに、高等教育や防衛省の予算の話も出てくる中で、宇宙の予算的な必要性について、どういうコンテキストでいく戦略なのか。(遠藤委員)
- 宇宙分野は、未来につながるものであり、日本再生計画に含まれている。また、日本再生計画で取り上げたものについては、予算編成方針の中に記載されている。そういう意味で、政府全体として重視する人材革命などの項目として、しっかり宇宙利用は、位置づけられている。(高田宇宙開発戦略推進事務局長)
- 人材のコンテキストはどうか。(遠藤委員)
- 今は未来投資という言い方である。未来投資の今年が一番のポイントは、人材投資のところで、ただそれだけが全てではなく、そのほかにも様々な項目があり、骨太の方針や日本再興戦略の中に盛り込まれている。(高田宇宙開発戦略推進事務局長)
- 日本再興戦略の中で、宇宙というのは、そういう位置づけだろうと思っている。少

なくとも宇宙政策委員会に携わっている人間とすれば、そういう位置づけでやっていただきたい。大きな旗を立てて、宇宙政策委員会が、日本の再興戦略の中核としてやっていくぐらいの気概を持っていきたい。(後藤委員)

- いわゆるデータ活用型社会というのが、今、社会の中、あるいは政府の中でも、いろいろと取り沙汰されているが、そことうまく絡めて、これまで地上のいろんなインフラをベースにしてやってきたものを、宇宙からのデータを使ったインフラに変えていくということで、いわゆる利用側を宇宙に巻き込んでいく。例えば農林水産省とか、国交省も含めて、そういうようなことを、1つの予算を取る手段として、もっと使えないのだろうかということを考えたりするが、その点はいかがか。(中須賀委員)
- 準天頂の利用やデータを使うモデル実証のような形式で一緒に行い、成功事例を創出させ、宇宙で使うといいことがあるということを確認できると、ほかの予算をつくる人も、さらに自分たちで増やそうということになる。いきなり宇宙予算を組んでくれというよりは、宇宙で使うといいことがあるということ、まずは共有していくというステージにある。(高田宇宙開発戦略推進事務局長)

以上